

シニアネットワーク連絡会セッション

福島若者は原子力に何を感じているか ～福島夢と課題～

Feeling of Fukushima's young generation on nuclear -Dreams and Issues-

(2) 福島高専との対話会を通じて感じる事

(2) Feelings through the dialogue at NIT Fukushima College

*坪谷 隆夫¹¹原子力学会シニアネットワーク連絡会

福島工業高等専門学校實川資朗教授（当時）による日本原子力学会シニアネットワーク連絡会（SNW）・エネルギー問題に発言する会におけるご講演「福島高専での廃炉などとの向き合い方および技術者養成の進め方」を契機に、鈴木茂和准教授（機械システム）のご指導の下に「廃炉工学」の授業の一環として学生との対話会が同年の2015年12月より始められた。その間、福島高専の学生との対話会「対話イン福島高専」は、鈴木先生に加えて赤尾尚洋教授（機械システム）の協力を頂き毎年継続的に開催され20年1月開催をもって5年目となった。

「対話イン福島高専」は、4年生以上の文系および理系の学生が開催日程の都合で30-50名が参加している。高専4年生は大学1年生の年齢であるが、理系は「廃炉工学」を受講するなど工学者としての将来を見据え学業に勤しんでいる。また、参加学生の半数近くが女子学生であることも特徴である。

週日の午後を使って50分程度のSNWメンバーによる基調講演1件および5-6名ずつに別れた150分程度のグループ対話で構成される。グループ対話には、SNW本部およびSNW東北のシニア専門家をグループ毎に2名程度を配属している。

基調講演は、エネルギー安全保障と温暖化対策、原子力発電所の安全、軽水炉の高経年化対策と廃炉、最終処分問題など、また、グループ対話は、基調講演に対応するテーマに加えて低線量放射線問題を取り上げている。20年1月の対話会におけるグループ対話では、トリチウム問題も取り上げた。テーマの設定は、高専側のご希望にできるだけ沿うように心懸けている。

対話会は、次世代を担う若者との対話を通じシニアの経験と考えを伝え、次世代を担う気概を自ら育む手助けをすることを目的としている。原子力開発の歴史を知る機会が少ない世代にエネルギーと環境問題に対する原子力の果たすべき役割を伝え、併せて若者の考えを聞く双方向の時間を実現しようとしている。対話会は、多くのシニア専門家が活動している日本であればこそ可能な試みであると考えている。

ここでは、これまで5年にわたる「対話イン福島高専」の感想およびアンケートをもとに福島高専の学生との対話会に参加した筆者らシニアが感じているところを述べてみたい。

*Takao Tsuboya¹¹Senior Network (SNW)